

# 東京桑野会会報

●2015年4月1日発行●発行・編集人 古川清●発行所 東京桑野会事務局 〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-2 サンミビル7階 新神田法律事務所内



No.37

《安積歴史博物館（旧本館）》  
画：秋山忠也（71期）



ご挨拶

東京桑野会会長  
古川 清

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

本年は終戦70周年となる。私の安中二年生の時で終戦の詔勅で世界が一変してしまった。エリート集団だった帝国陸海軍はあっという間に雲散霧消し、ひと月も経たぬ中に米兵が進駐して来た。皆体格が良く血色も良く道端に座り込んで大きな袋から取り出して我々にくれたチューインガムの何とおいしかったことか。

あれから70年、多くの国が独立を達成、政策よろしきを得て貧困から脱却した国も数多くある。国際貿易も飛躍的に増大し、世界は相互依存の時代に入っている。

しかし、理想の世界平和が到達したかと言えば未だ

程遠いと言わざるを得ない。あちこちで銃火が交えられ人命が失われている。更に新しいタイプの殺し屋、国際テロリストがオタワやワシントンに出没して市民を恐怖に陥れる事態も発生している。

そこで私は考えるのだが、もし朝河貫一博士が現在生きていたら、その透徹した歴史観の中で現状を如何に分析し、如何なる警鐘を世に放ったであろうか。私に明確な結論はない。しかし、彼ならこのままでは世界は破滅に向かうとして「世界の禍機」なる著作を出したに違いないと思う。会員諸兄、友人達と酒を飲み交わす時この点を討論されては如何であろうか。

## 東京桑野会平成27年度 定期総会・懇親会のお知らせ

下記の要領にて実施します。会員の皆様は、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

- 日 時：平成27年5月29日（金曜日） 16:00受付開始
- 場 所：ホテル椿山荘東京 [東京都文京区関口2-10-8]  
JR目白駅、または東京メトロ有楽町線江戸川橋駅 下車  
電話 03-3943-1111
- 会 費：懇親会費 ¥8,000 東京桑野会年会費 ¥2,000  
(合計 ¥10,000)  
117期以降の若手会員は、年会費・懇親会費合計 ¥6,000  
学生につきましては、年会費・懇親会費合計 ¥3,000
- タイムスケジュール  
16:00 (午後4時) ~ 受付開始  
17:00 (午後5時) ~ 平成27年度東京桑野会定期総会  
17:30 (午後5時半) ~ 講演会  
講師：関根 徹(80期)  
[株式会社文藝春秋社友]  
演題：間近に見た作家たち  
18:00 (午後6時) ~ 懇親会

東京桑野会は会員皆様の年度会費によって運営されています。

総会当日にご出席できない会員の皆様には、同封の振込用紙で年度会費2,000円のお振込みのご協力をお願い申し上げます。

◇準備の都合もごございますので、出欠の返事は同封の葉書で、5月19日(火)までにご返送くださいますようお願い申し上げます。

事務処理の都合上葉書には必ず住所、氏名、期を記入してください。

◇また、連絡もれがあるかと思われますので、先輩、同期、後輩もお誘い合わせのうえ、多数の出席をお願いいたします。

◇昨年度は、2014年6月21日(土)に、平成26年度定期総会・母校創立130周年記念式典として開催され、来賓3名、一般会員144名、学生会員5名の総勢152名の参加がありました。

## 母校便り

☆母校は今年(2015年)、創立131周年を迎えます。130年を超えて益々発展を続ける母校の様子を、母校からの情報をもとに紹介いたします。

☆2011年の東日本大震災で被害を受けた校舎は、2014年分として管理棟と理科棟の改修が終わり、震災前より改善された環境となりました。また、安積歴史博物館(旧本館)も復旧し、これまで以上に活用が期待されています。それらを舞台に、2014年晩夏、創立130周年を祝う紫旗祭(学校祭)と創立130周年記念式典が続けて盛大に挙行されました。紫旗祭では湯浅譲二氏(60期)が講演、創立130周年記念式典では山崎章郎氏(79期)が講演されました。お二方とも改めて紹介する必要もない、安積卒業生の誇りとなる存在です。

☆紫旗祭では、「伝統」の(相当昔からあった)「仮装行列」に加え「比較的新しい」「仮装パフォーマンス」等で盛り上がりました。ところで、「安積オリンピック」とありますが、これはどんなの?《文武両道部門》《質実剛健部門》《開拓者精神部門》とあり、面白そうだな。次回は見にいかなきや…。

☆紫旗祭に先立つ真夏の8月5日、創立130周年記念の招待試合が行われました。招待校は、【磐城】、そうあの【IWAKI】です。野球とサッカーの試合、前者は7-8で惜敗、後者は2-1での逆転勝利!でした。やっぱ、対磐城戦は燃えますね~。といっても、8月だったら、甲子園でのコバルトブルーも見たいし、紫の旗がたなびくところはもっと見たいですね…。

世界をもてなす、日本がある。



HOTEL 椿山荘 TOKYO  
CHINZANSO

〒112-8680 東京都文京区関口2-10-8 TEL:03-3943-1111(代表)  
<http://hotel-chinzanso-tokyo.jp/>



☆応援と言え、応援団と応援歌ですね。安積の応援団の発足は昭和24年とのこと。長い歴史の中で、それぞれの時代の中で、応援歌は様々な変化をしてきました。期によって歌う応援歌が微妙に違う…とうことも東京桑野会でも経験することです。そこで母校では130周年記念に応援歌が改訂され、メロディーや歌詞が統一されました。その応援歌改訂は、安積の応援を受け継ぎ、次世代に繋ぐものとなりました。

☆部活動での活躍も光ります。ハンドボール部女子チームが、第67回東北高等学校ハンドボール選手権大会において3位入賞をはたした他、陸上競技女子800m&1500m、硬式テニス部男子シングルス、卓球男子シングルス、にも安積の後輩たちは出場しました。さらに水泳部は、4名が出場しました。東北大会・新人陸上競技選手権では、100m 3位入賞を果たした選手もおり、益々の活躍が期待されます。文化部も、将棋部、囲碁部、放送部が東北大会への出場を果たしています。放送部は全国大会へも出場しました、スゴイ。

☆大学受験でも、安積の後輩達は頑張っています。平成26年春の受験では、国公立大学に172名が合格しました(現浪合わせ)。平成27年春の受験でも、奮闘を祈る！

## 会員消息

○湯浅譲二氏(60期)が、2014年度の文化功労者に選ばれました。実験的、先進的な作曲技法により、創造的な現代音楽を追求してきた功績が認められたものです。湯浅氏は、慶応義塾大学医学部在学中に音楽活動を開始。芸術家グループ「実験工房」に参加。幅広い作曲分野で知られ、「びゅわ〜んびゅわ〜んはっしる〜」の「はしれ超特急」も湯浅氏の作曲ですね。なお、東京桑野会HPの120周年記念頁にも、インタビュー記事が掲載されています(<http://www.tokyo-kuwano.com/120kinen/project-A/yuasa.html>)。

○逝去された方々のご冥福をお祈りいたします。( )は期、逝去された日。

中村亮八郎(49期)(平成24年9月)  
大橋 政夫(52期)(平成25年11月)  
池田庄治郎(53期)(平成25年11月2日)  
石川 敏雄(53期)(平成25年1月8日)  
三代川昌司(53期)(平成25年11月13日)  
浦井 宏(56期)(平成25年8月)  
安藤 直幸(59・60期)(平成25年11月8日)  
石井 進一(61期)(平成25年12月30日)  
伊藤 誠治(61期)(平成26年3月18日)  
今泉 博行(62期)(平成26年3月22日)  
鈴木 長和(62期)(平成25年12月14日)  
栗原 正義(63期)(平成26年2月20日)  
高嶋 磐根(64期)(平成25年10月2日)  
田中 忠義(64期)(平成26年3月30日)  
糠澤 榮一(64期)(平成25年12月25日)  
本田善九郎(64期)(平成23年12月3日)  
阿部 文俊(65期)(平成25年11月)  
伊藤 巖(65期)(平成26年10月2日)  
中路 信(65期)(平成25年6月28日)  
若林 章一(65・66期)  
小館 裕彦(66期)(平成26年2月28日)  
大内 博文(71期)(平成26年7月9日)  
遠藤 紀夫(73期)  
永井 邦夫(73期)(平成25年7月14日)  
渡辺 昭司(75期)(平成25年10月29日)

[敬称略]



### ご挨拶

—131年目の  
安積—

安積桑野会会長  
山口 勇 (69期)

まだまだ寒い日が続きますが、東京桑野会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。昨年創立130周年記念式典の際は下村博文文部科学大臣にご臨席いただき、また古川清会長にもご出席いただきありがとうございます。おかげさまで式典も盛大に行われ成功裏に終了いたしました。同窓会の皆様からも多大なるご寄付を頂戴し心より感謝申し上げます。

母校安積高校の後輩も久保田校長(88期)を中心に、勉学にスポーツに日々励んでおります。勉学の方では、今年度の結果はまだすべては出ていませんが、2月11日現在福島県立医科

大学医学部医学科に推薦で6名の生徒が、東北大学にはAOⅢ期で4名の合格者が出ています。128期生も、必ずや例年以上の素晴らしい成績を挙げてくれるものと期待しております。

部活動では、陸上部の男子1年生が100mとリレーで国体に、弓道部の女子2年生が全国選抜大会に出場しました。文化部では、放送委員会がNHK全国放送コンテストに、写真部が全国高等学校総合文化祭に出場しました。まさに文一武両道にふさわしい活躍であると思います。

安積歴史博物館の補修工事も無事終了し、昨年9月6日に正式にオープンとなりました。早速オープン当日、復元教室で下村文部科学大臣と語る会が行われました。時間が限られた中で、大臣と生徒代表30名が様々な議論を繰り広げました。終了後大臣から名刺をいただくなど貴重な経験になったと思われます。10月18日にはフィールズ賞(数学のノーベル賞とも言われる)を受賞された広中平祐氏の講演、10月25日には宇崎竜童さんによるコ

ンサートも行われました。今後もいろいろな催しが企画されております。新しくなった安歴博にぜひ足を運んでいただきたいと思います。同窓生の皆様には、安積歴史博物館の修理のために多大なる寄付金をいただき心から感謝申し上げます。

さらに今年になってうれしいニュースが舞い込んできました。早稲田大学競走部の駅伝監督に相楽豊氏(112期)が就任することになったというニュースです。同部の駅伝監督は平成16年から渡辺康幸氏が務めていましたが、渡辺監督と二人三脚で部員の指導に当たってきた相楽氏の手腕が評価されたとみられます。相楽氏は箱根駅伝は1年で山上りの5区、3年で山下りの6区を走り、4年では駅伝主将を務めました。早大のみならず安高卒の選手が箱根で大活躍する姿を見たいものです。今後とも母校である安積高校及び後輩へのより一層の支援をお願いするとともに日頃からのご高配に感謝を申し上げます、東京桑野会の益々の発展をご祈念いたします。(平成27年2月記)



**ご挨拶**  
—安積130周年の  
区切りに—

安積高等学校長  
久保田範夫

昨年6月の東京桑野会平成26年度定期総会では大変お世話になりました。東京の皆さんの母校安積への熱い思いを肌で感じることができ感激しました。

安積にとって昨年は、創立130周年という節目の年でした。9月6日には記念式典を開催、引き続きケアタウン小平クリニック院長で79期の山崎章郎（ふみお）医師による講演会、安積桑野会総会、祝賀会・懇親会と慌ただしくも大変充実した一日となりました。今回は、安積130年への私の思いが最も表れているはずの校長式辞の一部を掲載させていただきます。若干長くなりますが、130周年に免じてお許しください。

**式辞（抜粋）**

（前略）明治17（1884）年、22歳の森鷗外がドイツ留学へ旅立ったのがこの年ですが、本校は福島県福島中学校として歩み出し、明治22年には、福島から当時の安積郡桑野村の新校舎、現在の安積歴史博物館に移転し、以来、約33,000名の有為の人材を世に送り出し、今日まで130年の長きに亘って先導的役割を果たしてまいりました。卒業生は、エール大学教授を務め、世界平和こそが人類の永遠のテーマであることを生涯訴え続けた国際的な歴史学者朝河貫一博士を始め、全国でも4校だけ（注：都立九段と日比谷、私立麻布、そして安積）と

聞いていますが、芥川賞作家を3名輩出するなど、様々な分野で活躍されてきました。

その間、まさに21世紀が動き出した平成13（2001）年に、男女共学化という大きな動きがありましたが、本校の生徒達は「開拓者精神、質実剛健、文武両道」の「安積の精神」を常に先輩達から学び取りながら、時間や言葉・記憶を共にし、「安積」という学校文化を3年間共有して、まさに安高生の矜持・プライドを身につけ伝統を築き上げてきたのだと私は考えます。

その中で、安高生は、安積の精神と伝統をただ受け継ぐだけではなく、明治・大正・昭和、そして平成の各時代背景の下、「真の安高生は如何にあるべきか」「安積らしさとは何か」を絶えず自らに問いかけて検証し、自主自律の精神のもと、新たな伝統を創造してきたのであります。また、「安積の精神」の中でも開拓者精神は、大きな困難に立ち向かい自分の人生を切り拓いていくということだけではありません。つまり、自分がしたいことを貫くことに加えて、大震災後のふくしま、日本、そして人類のために、「熱誠 事に当たりなば」、熱き誠の心をもってに当たろうという高き志を掲げて、夢に向かって進んでいくこと、それが安積の開拓者の真の姿と言えるでしょう。

（中略）近代短歌を切り拓いた浪漫派の歌人と謝野晶子は、次のような短歌を残しています。

劫初よりつくり営む殿堂に

われも黄金の釘一つ打つ

遠い遠いこの世界の初めから人間は、文化遺産ともいべき文芸・文学という無形の殿堂を営々として築き上げてきたが、自分も釘一本なりと打

ち込み、ささやかではあるがその営みに参画したい。それも、ありきたりの鉄の釘ではなく光り輝く黄金の釘を。

私は、本校1期生高山樗牛の時代から、現在の1年生である130期生に繋がる安積の生徒たちが営々と築き上げてきた大きな殿堂が安積高校である、と捉えています。気宇壮大な与謝野女史の足元には及ばなくとも、安積という殿堂に集う私たち教職員・生徒が、一人ひとり持っている釘をしっかりと打ち込み、この殿堂をより高く、より大きくしていきたいと考えております。その釘は、プラチナかも知れないし、或いは鉄や木製のものもあるかも知れませんが、この殿堂のどこかに打ち込む場所が、釘がびったりと収まる場所が必ずあるはずで。仮に、在学中にうまく釘を打ち込むことができなかったとしても、大震災の経験をしっかりと踏まえて、生涯に亘って知性を磨き続けることによって、安積という殿堂を確固たるものとする事ができるはずであります。

こうして、140年、150年の時を経た未来の安積の殿堂を見据えながら、教職員、生徒一同が力を合わせて、安積の良き校風と伝統を更に揺るぎないものとし、校歌にもあるように「七州の覇」と称えられるに相応しい安積高校にしていくことを改めて決意するとともに、安積桑野会の同窓生を始め、今まで安積を支援していただいた全ての皆様に感謝の気持ちを捧げ、式辞といたします。（了）

安積は131年目の歩みを進めていきます。更に大きくなっていく「安積の殿堂」が、日本一揺るぎないものとするべく、これからも皆様からのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

**がんばろう 福島!!**

そば うどん 酒処

**鞍手茶屋**

昼はボリュームたっぷりで  
ヘルシーな そば・うどん  
夜は品揃え豊富な  
東北の地酒で一杯

霞ヶ関店 〒100-6001 東京都千代田区霞ヶ関3-2-5 霞ヶ関ビル1F ☎03-3581-7066  
大手町店 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービルB1 ☎03-3213-2385  
中山峠店 〒963-1304 福島県郡山市熱海町国道49号線中山峠 ☎024-984-3774 〈店主〉上野富衛(78期)



## 創立80周年、いま何処

### 安部直文 (80期)

私が入学した年、創立80周年記念式が挙行された。その折り、旧制安積中学卒業の中山義秀さんが記念講演をされた。中山さんは小説『厚物咲(あつものぎき)』で第7回芥川賞(1938年)を受賞され、文壇の大御所として確たる地位にあった。

昨年末、同期の上石利男君と会った時、記念講演の演題が話題になった。私は「去年(こぞ)の雪」と記憶していたが、彼は「去年の雪いまいずこ」ではなかったかと言う。成績優秀だった上石君の記憶力のほうが確かと思われたので、それに従うことにしたが、「いまいずこ」では文豪が使う言葉としてはいかにも軽々しい。私は「去年の雪、いま何処(いずこ)」という表記にすることで勝手に得心した。母校に確かめれば解決する問題なのだろうが、敢えて表記も含め曖昧なままにしておこうと思う。

記念講演の依頼で鎌倉極楽寺の中山邸を訪れたのは、たしか椎野喜勇教諭だったはずだが、その時の逸話を授業中にうかがった。その話に触発されて、文芸部をつくろうということになり、8名ほどが名を連ねた。メンバーは当時、中山さんに続けと気負い込

み、小説家の道をこころざした。部室を構え、文芸誌を発行(1号だけ?)した記憶があるが、なにしろ半世紀も前なので、曖昧な事柄が多い。

1968年秋、19歳の私は面会の許しを請わぬまま中山邸を訪れた。あわよくば、弟子にしてもらおうとの魂胆もあった。玄関内に招じて下さった家人に、私が同窓の後輩であること、祖母が長沼出身で中山家の縁筋にあたりと聞いていること、小説家を目指していることを告げると、気の毒そうに「どなたとも面会がかなわない状態な

んですよ」と言われたので、辞去せざるを得なかった。翌年8月19日、中山さんは68歳(10月5日生れ)で亡くなられたが、私の不躰な訪問をした時、ガンとの闘病のさなかだったことを後に知った。

それから47年後の今、私はついぞ小説家として世に出ることはなかったが、倦まず文筆業を続けている。同期の文芸部メンバーで、小説家に最も近付いたのは関根徹君だろう。といっても、やがて文芸春秋社に入社し、多くの小説家との交流があったという



《安積健児像・三代の肖像》画：秋山忠也(71期)

# 小橋クリニック

院長 小橋主税 (86期)

福島県須賀川市仁井田大谷地172-3  
TEL 0248-72-1555

意味で、である。過日、テレビ番組の向田邦子特集を何気なくみていたら、彼が登場して向田さんとの思い出を語っていた姿に驚いた。文芸部当時の「美少年の面影、いま何処」といった風だったからである（私も同じだが）。

この原稿を書きながら、ふと思いついて卒業アルバム（1967年）を繙いてみた。80周年記念式は1964年9月10日～13日と記されていた。クラブ活動の記念写真には文芸部として19名が写っているの、のちに部員増加し、学校公認だったことが判明した。

記念講演をされた時の中山さんは64歳（翌月に65歳）で、胸躍らせて文豪を見上げた同期生は皆、当時の中山さんより年長になってしまった。創立80周年は私にとっても「去年の雪、いま何処」といった心境で語るほかな

いが、まるで雪に覆い隠されたかのごとく、記憶の彼方にぼんやりと残る曖昧な事柄こそが、存外、生きる支えになってきたのかも知れない。

（出版プロデューサー）

## 安積高校の思い出

平田勝也（76期）

安積高校を卒業し早や52年になります。私達第76期生は、校歌や応援歌に謳われる田畑に囲まれた、平安時代に式子内親王の歌（我が袖は かりにもひめや 紅の 安積の野らにかかる夕露 式子内親王集）等にも詠まれた、安積野の牧歌的な雰囲気のある旧桑野村の面影が残る郡山市の西の郊外の安積高校に入学しました。

津口信男校長の下、先生方先輩方に

見守られ、入学早々東側の講堂に集められ、校歌や応援歌を徹底的に叩き込まれ、また朝河桜の由来を聞かされる等で入学初年度をスタートしました。現在安積歴史博物館となっている本校舎で2年間、西側の新校舎で1年間で過ごしました。当初2年間は下駄履きで（後に禁止）通学したものです。

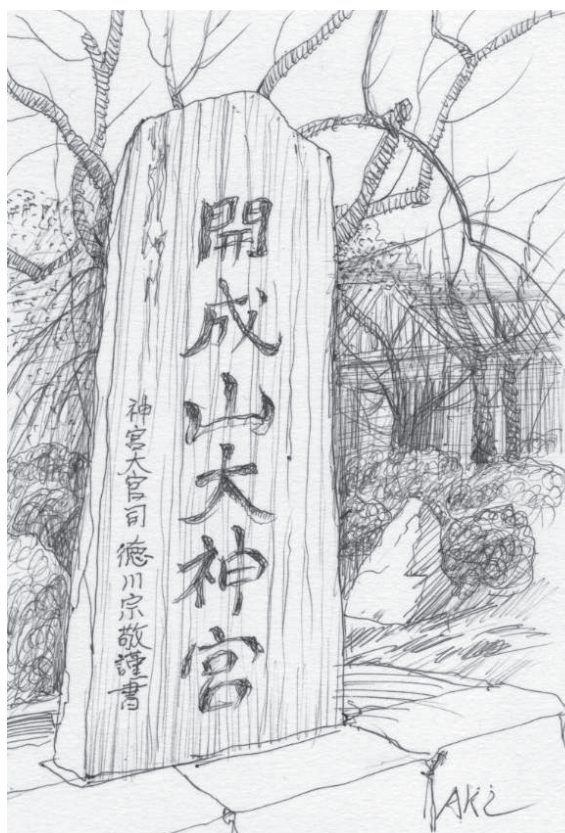
受験校でもあり年中模擬試験等の猛勉強を強いられましたが、比較的楽しみながら授業を受けられたのは、吉田彌・牧田治久先生の国語、竹花栄明先生の世界史、伊藤仁・吉田米吉先生の数学等でしょうか。日本史の授業では、当時安保騒動が起こっており、高橋哲夫先生が授業そっちのけで滔々と、日本国が進むべき方向を論じられたのを覚えております。古関齊先生の音楽の授業では、音楽室でクラシック音楽を黒いカーテンを引いて鑑賞したのも印象に残っております。体育では、星彰夫、三塚晶弘先生らのご指導の下、砂塵を巻き上げてのサッカー授業も覚えております。

またクラブ活動でバレーボール部に属して対外試合に参加することや、たまに近くの郡山女子短期大学付属女子高校に交流練習に出掛けるのも青春の密かな楽しみでありました。

通学の合間に辞書を見て英単語の暗記に努める日々で、校内図書室や市立図書館を利用する等結構場所取りが大変で、家業を手伝いながらの勉強でした。

学校祭では仮装をして市内を練り歩きましたが、教室で喧々譁々プランを練ったり級旗をどうするか議論したりし、私は姉からブラジャーを借りて込め物をして女装し、冷やかされたのも今では懐かしい思い出です。

その後進学し就職して社会人となりましたが、目先の出来事に追われて正直安積高校のことは忘れておりました。しかし歳を取り比較的時間に余裕が出来始めた頃から、同期の友人に



《開成山大神宮・大鳥居脇の石碑》画：秋山忠也（71期）



誘われてホテル椿山荘での東京桑野会総会に参加するようになりました。また2年程前から、前幹事の満井君から頼まれて後任の幹事を務めております。会で驚いたのは、いつの間にか女性が同窓会に加わって壇上で元気良く感想を述べるようになったことです。先輩と呼ばれて面映ゆい思いをし、安積高校も変わったんだなあ、年月が過ぎたことを実感させられました。現在女子が半数近くまでを占めるとかで、そうすると男子にとってかなりの狭き門となり、慨嘆するばかりです。これからは、女性が増えたことから、私達が当時思い描いた学校像とは多少違った、校風が形成されてゆくのであろうと思います。

現在世界は政治・経済・戦争・文化並びに人口膨張と食糧・病気・エネルギー・地球温暖化等大問題を多く抱え、目まぐるしい変化の渦中にあります。人物金が短時間で行き交い、これまでより地球が狭くなっており、グローバルな視野と行動が求められております。

いずれにせよ先輩達が築いてこられた伝統に則り、若い人達は大きく社会に寄与し、世のため人のため、日本国ならびに世界の人類に貢献する気宇広大な人間に育って欲しいと思います。安積高校の開拓者精神・質実剛健・文武両道かつ素朴で良い意味のパンカラ精神で世の中に役立って欲しいと思います。

## 母校 安積高等学校は……

吉成二男 (91期)

2011年東日本大震災から、早くも4年が過ぎました。1982年大学卒業就職により郡山市田村町の実家を出てしまいましたのでその当時の体験はありませんが、そこに暮らしている

父と弟家族は当時とあまり変わらない状況の中で今も一生懸命生活しています。新聞に記載される放射線量を見るたびに福島市や郡山市だけ取り残された思いを感じるの私だけでしょうか。一方、その忌々しい東日本大震災がきっかけで、東京桑野会に初参加、母校安積高校そして故郷への思いを改めて強く認識しました。

高校大学と一緒だった91期同期安達尚弘君達は、毎年クラスの同期会を行っているとのこと、まずは同期会参加を勧められました。そして、2010年11月19日(金)有薫酒蔵新橋店での91期同期会に初参加。同期会参加者は、次のメンバーでした(記載漏れご容赦願います)。講談社増子昌也君、大成建設秋山学君、帝京大学池田弘人君、東京技術計算コンサルタント田原美郷君、KDDI富山秀樹君、スコブル社飯村宙君、昭和電線デバイステクノロジー並木信也君、電力中央研究所渡部良朋君、読売新聞西田幸雄君、駿河台学園橋本良平君、かん菅野正広君、三菱電機味沢晋一郎君、福島テレビ高橋令一君、アサツーディ・ケイ秋山茂雄君、ズアン安達尚弘君。

翌年2011年3月11日(金)東日本大震災。同期会出席者から福島を想う熱いメールが送られ、福島に何かできないか、今こんなことをしている等仕事の合間に情報交換、メール参加者も自然に膨らんでいました。その後、2011年6月3日(金)椿山荘にて東京桑野会総会。初参加の不安は不要でした。わが母校安積高校は、卒業生共通の心の故郷です。現役当時何の接点も無いのにすぐに打ち解け、それぞれ別々の思い出が母校を通じて共有できてしまいます。勤務先や職業といった違いをすぐに乗り越えてしまいます。まだの方はぜひご参加ください。安積高校のこうした繋がりは、同期はもとより先輩後輩、学校関係者、その関係者と無限の広がりを持っており、

OB一人一人の大きな財産となっております。

現在、私の勤務先は、日本電波塔株式会社(東京タワー)です。中学校の修学旅行で東京タワーにのぼったことを覚えています、それ以来全く無関係の存在でした。縁あって2013年7月より勤務しております。東京タワーは、1958年開業以来、日本の発展のシンボルでした。テレビ局送信所としての役割はその殆どが東京スカイツリーに移行しましたが、今でも東京のランドマークとして海外からも多数のお客さまが訪れる観光拠点です。私が今取り組んでいる仕事は、東京タワーの有効活用です。3月13日(金)東京ワンピースタワーがオープンしました。これは漫画ワンピースのテーマパークでクールジャパンを世界にアピールします。東京タワーはパリのエッフェル塔を目標に、これから60周年100周年未来にむけて内外に希望の光を発信して参ります。皆さん、ぜひ東京タワーにお越しください。安積高校OBがお待ちしております。

(日本電波塔株式会社)

## 夢見る頃を過ぎ、 還暦も過ぎて…

小林伸久 (84期)

還暦から2年がたちましたが、まだまだ未完成という心境の今日この頃です。私の回りの、安積に繋がる人たちの事を書いてみたいと思います。(文中の同期生については敬称は略させていただきます)

東京にいる、84期の仲間たちとは、目白・椿山荘での東京桑野会総会に集まる他、84期の会(「野志の会」と名付けています)として忘年会若しくは新年会を開催しております。今年も新年会を企画し、平成27年1月31日に日本橋の「海鮮&カキのイタリアン

カレンダー」で開催しました。日本海・島根県隠岐島より直送のブランド牡蠣「春香」と日本海産の新鮮なシーフードをふんだんに使ったイタリアンのお店で、参加者は最終的に10名となりました。「病気」と「年金」と「孫」の話題がもっぱらとなるのは、年齢的必然で仕方の無い事ではありますが、まだまだ前向きに生きている仲間との歓談はいつも時の経つのを忘れる楽しい貴重な時間であり、元気をもらえます。

今回の参加者は家久来澄夫（NHKエンタープライズ）、佐々木志郎（りそな総合研究所）、内藤芳樹（キングコーポレーション）、根本 博（プランニング・オフィス・バード）、松井陽一（内田洋行）、村越仁一（弁護士・玄 総合法律事務所）、八木澤伸夫（YKK AP）、山本謙二（写真家・エスペース代表）、渡辺修哉（サントリー）、そして私、小林伸久（内装工事・孝和建商）その他、今回は参加となりませんでした。その他に今まで「野志の会」もしくは東京桑野会総会

に参加してくれたメンバーは、青沼俊博（麻雀鍛錬道場・館長）、安達文宏（安達建築設計事務所）、片山孝太郎（歯学博士・陸上自衛隊）、菊地弘美（農林水産省）、桑名 明（ヘンダーソン・グローバル・インベスターズ・ジャパン）、高橋信一（凸版印刷）、中山武雄（靴販売・フスス代表）、根本昌夫（早稲田大学法政文学部講師）、武藤比良志（米国全日空商事・社長）、諸井包典（国分市役所）、渡辺真佐夫（セイコープレジジョン）ただし、所属会社とか、肩書きはこの年齢になると退職したり、子会社等の別会社に移ったりしておりますので、あくまでも私の手元の資料によります。その他のメンバーにも年賀状等で呼びかけているのですが、なかなか参加までには至っていないのが現状です。おっと、忘れるところでした、昨年の東京桑野会総会には私の呼びかけに応じて、郡山から勝又俊博（郡山市議）が駆けつけてくれました。感謝、感謝。

まだ、同期の会には参加してもらえていませんが、紹介しておきたい

仲間がいます。私は高校の2年～3年時に合唱部に籍をおいていましたが、その時の部長が、鈴木茂明です。国立音大卒後、同大学の大学院ドイツリート専攻修了。2006年4月23日には東京オペラシティコンサートホールでバリトン・リサイタルを開催。全自由席5000円にもかかわらず、1500名の聴衆を集め魅了しました。郡山からも大型バスで大勢の方が来場しました。1993年から高田三郎作品の個展「リヒトクライス演奏会」を主宰し、毎年開催しています。現在、国立音大付属高校非常勤講師、混声合唱団コーロ・ソフィア、女性合唱団コーロ・コスモス、筑波大学混声合唱団、その他の指揮者及びヴォイストレーナーを務めており、今年、2015年6月5日（金）には、浜離宮朝日ホールに於いて、19時より久し振りにリサイタルを開催の予定です。私も今から予定に入れています。ともかく合唱部部長の頃からこよなく音楽を愛し続けるすばらしい仲間です。

毎年、お正月は郡山の実家で迎えておりますが、正月の2日には84期2組の仲間と新年会をやっています。クラスの幹事が二人とも健康を害してしまい幹事が出来なくなったと聞き、私が幹事役を買って出ました。今年は1組からの呼びかけがあり、久々に1組・2組合同で郡山駅前前の珍満で開催。あわせて20名ほどの会となりました。1組の幹事（真壁和義）には大変お世話になっております。友達の安否確認を兼ねる意味からも毎年開催したほうが良いという意見が多く、参加人数が少なくても毎年開催していくことになりました。

昭和54年頃、福島県立美術館建設構想が県から示され、政治的に建設場所は福島市で決まりだといわれる中、県民が広く利用できる郡山に作るのがふさわしいとして市民運動としての「郡山に美術館をつくる会」ができ、



《開成山公園・五十鈴湖》画：秋山忠也（71期）



署名運動やイベント開催をしていました。当時、郡山に帰っていた私は署名運動に協力し、何度も署名用紙を清水台の岡野設計にあった事務局に取りに行ったりしているうちに自然と「作る会」の事務局にも協力するようになりました。最終的にはその運動が郡山市立美術館建設に繋がりました。この運動の中には佐藤昭一さん（56期）、七海皓熒さん（74期）、猪熊克芳さん（83期）の絵を描く諸先輩もいました。とりわけその中でも七海さんとは本日に至るまで親交が続いております。平成24年3月8日にBSフジで放映された「福島からのワンステップ～日本初の野外ロックフェスの軌跡～」ではじめて詳しく知ったのですが、昭和49年の8月4日～5日、8日～10日に郡山市開成山公園陸上競技場で開催された日本初の野外ロックフェスティバル。七海さんは実行委員長佐藤三郎（70期）と共に

このフェスティバルをやりきりました。昭和44年アメリカ・ニューヨークのホワイトレイクで開かれた野外ロックフェス「ウッドストック」からわずか5年、30組以上の日本のミュージシャンに加え、オノ・ヨーコも参加、内田裕也がプロでユースし、更にポスターには横尾忠則を起用、しかもその殆どがノーギャラで協力してくれた伝説のロックフェスティバル。これはもっともっと評価されてしかるべきだと思います。七海さんは歴史春秋社からの「安積」を始め執筆でも活躍されています。

我が社の創業者の小黒邦雄会長（旧姓・本郷・70期）は、70期のメンバー、笠松吉美さん（郡山・70期）、山田昭夫さん（大阪・70期）と毎年持ち回りで、千葉・郡山・大阪で同期会を開催されています。昨年は千葉での開催だったので、私も懇親会に参加させて頂きましたが、談論風発、口角泡を飛

ばしジョークを交えながらの宴は心底楽しいものでした。孝和建商の創業者である小黒会長の「ノミネーション」の大事さは私も今後大事にしたいと思います。同業の他社に28年勤務していましたが7年前から孝和建商に勤務しております。会社と会長には深く感謝しております。

東京桑野会に参加するようになって16年ほど、安高の先輩そして後輩とのいろいろな出会いがありました。今後もどんな方々とのどんな出会いがあるのか楽しみです。昨年は、母校創立130周年の年ということもあり、郡山文化センターで安積高校合唱団の定期演奏会時に、OBとして「月光とピエロ」を久し振りに歌わせて頂きました。現役メンバーと同じステージに立てて嬉しく思いましたが、我々の頃の部員15名ほどの男声合唱とは比較にならない安積高校合唱団のステージに、感心しきりでした。安積高

不法電波は  
やめましょう！

ATIS(自動識別装置)を  
必ず取り付けましょう！

技術と奉仕の無線機器部門  
ソフト開発と奉仕のコンピュータ機器部門  
ニーズに対応、奉仕の電話機器部門  
株式会社富士通ゼネラル通信特機特約店  
富士通テン株式会社特約店

# 株式会社 山口電機

www.yamaguhi-denki.co.jp

本社 宇都宮市宮の内2丁目184番地18  
水戸支店 水戸市中河内町67番地1  
さいたま支店 さいたま市三橋1丁目815番地  
東京支店 江戸川区春江町2丁目10番3号  
千葉支店 千葉市稲毛区六方町215番地22  
高崎支店 高崎市倉賀野町5319番地1  
会津若松支店 会津若松市一箕町八幡38番地11号  
横浜支店 横浜市青葉区元石川町3719番地8

TEL(028) 655-1600(代表)・FAX(028) 653-7817  
TEL(029) 227-2205(代表)・FAX(029) 227-2237  
TEL(048) 663-4000(代表)・FAX(048) 663-4274  
TEL(03) 3698-1600(代表)・FAX(03) 3698-1699  
TEL(043) 423-3000(代表)・FAX(043) 423-3503  
TEL(027) 346-4000(代表)・FAX(027) 346-4004  
TEL(0242) 23-1700(代表)・FAX(0242) 23-1701  
TEL(045) 921-5100(代表)・FAX(045) 921-5416

代表取締役 山口雄機（74期）

校合唱団の今後益々の活躍を祈念して  
ペンを置く事に致します。

(東京桑野会副会長)

## あの世に旅だった親友 の動画が見られる！

永山幸男 (82期)

零細というべき規模の出版社で40年以上編集の仕事をしています。刊行する本のほとんどは理系書籍で、出版点数、刊行部数も限られているので、いわゆる“ベストセラー”とは無縁です。また、電子メディアの普及によって紙の本は媒体としての相対的価値が下がり、出版業は厳しい状況です。わが社もその例外というわけにはいきません。

この40年間に紙の本としては完全に絶滅したジャンルがあります。各種の数表です。私が大学生だった1970年代、理科系学生にとって三角関数表や対数表は必須のアイテムで、計算尺や手回し計算機でさえまだ現役でした。ちょうどその頃、電卓が普及しはじめ、やがてパソコンが登場し、コンピュータ技術はあつという間に社会の

あらゆる分野に浸透していきました。

出版社にとっても、この40年間は各種のコンピュータ技術に振り回され、翻弄された時代でした。かつて、三角関数表や対数表などさまざまな分野の数表は、それぞれ理系出版社の屋台骨を支える“書籍”でしたが、手軽に使えるコンピュータはそれらを無意味なものにしました。また、雑誌や本の編集作業そのものが、コンピュータなしにはできなくなりました。

20世紀後半まで、大量のデータは紙に印刷して保存するのが最も合理的な手段で、印刷された紙を綴じた書籍は大量の情報を数百年にわたって伝達してきました。しかし、現在、デジタル化された電子的データ保存が可能になると、そこで扱われるデータ量は桁違いになりました。

インターネットの普及は、地理的隔たりもほとんどゼロにしてしまいました。また、電子的媒体に保存されたデータは、意図的に消去されない限り、いつまでも生き続けることを可能にしています。本は時間とともに崩壊してしまいますが電子的記録はそうではありません。適切にバックアップされる限り永遠に生き続けます。

最近、そのことを非常に身近なこととして感じる機会がありました。安積を卒業してから40年以上、途切れることなく交友関係を保ってきた四人グループのうちの一人が昨年亡くなりました。彼は、いわゆる「諫早湾干拓問題」に長くかかわってきました。

「諫早湾干拓問題」とのかかわりは、彼のライフワークとも言えるものでした。その活動の中で彼が生み出した貴重なデータや資料などは相当な量になるはずで、昔ならその突然の死によって、その散逸を防ぐ手立てなどを考えなければなりません。ほとんどがインターネット上に残っているのです。紙媒体で発表された論文も、そのPDFファイルがアップされています。

そして、彼の講演やインタビューなども動画としてインターネット上に保存されています。元のサイトで消去されても、コピーされ続ける限り彼の動く姿を見ることは可能です。このことは理屈としては知っていましたが、親しい友人の死によってリアルに体験することになりました。驚くべき時代になったものだと思います。

(地人書館)

## 安積歴史博物館便り —安積歴史博物館の今後—

橋本文典 (84期)

初めまして、昨年の評議員会で理事に推薦され、その互選により「業務執行理事」に選任されました橋本文典(はしもと ふみのり)と申します。卒業期は「84期」です。博物館には平成22年6月からお世話になっております。前任者の足元にも及びませんが何卒よろしくお願ひいたします。

ご承知の事と存じますが、安積歴史博物館は東京桑野会の皆さまはじめ多くの同窓生や各方面からのご支援ご尽力により昨年9月の本校130周年記念祝賀会と同日に再開いたしました。当日は桑野会総会も3年振りに講堂を会場として開催され、震災からの月日を思い出し、感慨深いものが有りました。

さて、再開した博物館は今までの展示スペースをそのまま復元するのではなく、同窓生はじめ多くの皆さまに親しんで頂くようにと展示用部屋割りか

ら検討しました。そのコンセプトは「文化財としてのアピール」と「利用・活用出来る文化財」でした。

具体的には、重要文化財としての建物を見学していただいた皆様により理解しやすいように展示すること。又、親しみ易くするため子供も年配者も興味を持てるように展示すること。更に、広い意味での「安積」について見ていただけるような展示をすること。そして、安積に学んだ人々の「サロン」となれるようなスペースも確保すること、等です。現在全てが完成されてい



る訳では有りませんが、順次整備をしていきたいと考えます。

ところで、本年4月から6月まで「福島デスティネーションキャンペーン(福島DC)として観光関係者と自治体とJR東日本を中心に一大観光イベントが開催されます。当館も郡山市の観光地として大いに期待され、パンフレット作製等に協力し、特に首都圏のお客様をお迎えし、この機会に「安積」の名が広がる一助にと考えています。

今年度の予定としては、3月末から6月末にかけ、2教室を利用して「近代建築写真展」を開催いたします。又、時期は未定ですが地元小学生による本館を題材とした写生会を開催し作品を館内に展示します。更に各種イベントの会場として利用されるような広報活動も実施します。確定では有りませんが「テレビドラマの撮影」のロケハンにも来て頂いております。

本館に人々の声が溢れ、若人の熱気が満ちて来ると建物も生きているように感じられます。「迷ったら本館に行け」と先生から言われましたと言って高校生が来たそうです。本館には卒業生の「想い」が有ります。その「思い」を絶やさぬよう、そして時に応じて変えながら務めていきたいと考えています。

東京桑野会の益々のご発展をお祈りし、更には今まで以上のご支援をお願い致しまして、ご報告とご挨拶に代えさせていただきます。

(安積歴史博物館 業務執行理事)

## 朝河貫一顕彰協会便り

矢吹 晋 (70期)

朝河貫一博士顕彰協会の2014年度における活動の一端をご紹介します。

・2013年度の活動と決算を承認し、2014年度の活動方針と予算とを決定する総会は、5月17日(土)に改装なった安積歴史博物館で行われた。朝

河遺影や解説パネル等の展示は9月の記念式をメドに準備中の旨、報告された(写真-1)。

・7月13日には福島市立山天正寺本堂庫裏の落成式が行われ、朝河4歳当時の「奔馬の落書」を記念するコーナーの除幕式が行われた(写真-2)。古川清会長が「胡耀邦の感謝の手紙」を紹介しつつ、日中関係の現状についての記念講話を行った。

・9月6日(土)、安積中学・高校の創立130周年記念式典が安積歴史博物館のリニューアルオープンに合わせて行われた。この機会に「朝河貫一博士展示コーナー」の準備が協会事務局の手で進められ、既存のパネルを再利用するとともに、新たな展示写真も増えた。近年発刊の顕彰出版物も展示さ

れた。

・11月14日(金)、理事会が開かれた。顕彰協会は2004年5月22日の発足以来10年目を迎え、役員交代・辞任等もあり、組織・体制の見直しと強化が行われた。郡山地区、二本松地区、福島地区から、新常任理事が推薦され就任した。ただし、古川清会長、糠沢修一常務理事の両輪体制に変化はない。

・2014年5月、武田徹(顕彰協会前事務局長)、梅田秀男(元安積高校長)、佐藤博幸(県立喜多方高校教員)による『100年前からの警告—福島原発事故と朝河貫一』(花伝社)が出版された。帯封に曰く「朝河貫一の警鐘を受け止めていれば、福島原発事故は起こらなかった」。これは国会事故調

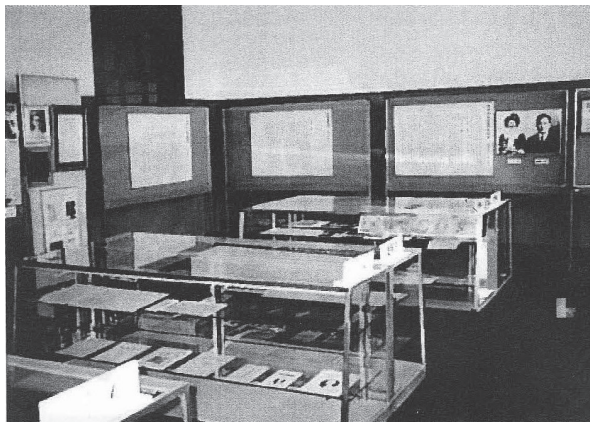


写真-1 史料等の展示ケース

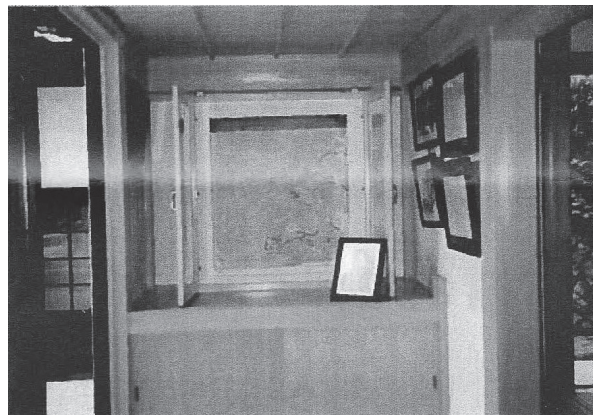


写真-2 本堂回廊に保存された「落書」

査委員会委員長黒川清教授の推薦文である。福島在住の研究者ならではの新しい知見が少なくない。

・手前味噌で恐縮だが、矢吹は『尖閣衝突は沖繩返還に始まる』（花伝社、2013年8月）の末尾で「アメリカの日本学と戦後日本」に触れ、朝河貫一とジョージ・ブレイクスリー（米国際関係の父）およびヒュー・ボートン（戦後日本の設計者）の関わりを説明し、平和憲法における象徴天皇制の実現における朝河貫一の貢献を指摘した（第7章朝河貫一の人脈）。さらに『敗戦・沖繩・天皇』（花伝社、2014年8月）においては、II部を「朝河史学に学ぶ天皇制」と題して、「日本史における天皇制」、「歴史家朝河貫一、平和への最後の闘い」、「国民性の弱点が日本の民主主義を葬る」など、朝河の知られざる高見を紹介した。ご参照いただければ幸いです。

（朝河貫一博士顕彰協会代表理事）

## ホームページの 運用状況報告

—創設12年目の活動と  
アクセス状況—

<http://www.tokyo-kuwano.com/>

**芳賀雅美（86期）**  
（東京桑野会ホームページ委員長）

毎年おなじみになりましたが、ホームページ委員会より当会公式ホーム

ページの運用状況を報告します。昨年度につきましても運用は順調に推移しました。ハード面での障害は全く発生しておらず、サーバーを管理するプロバイダー側の努力が大きかったものと考えています。大きなトラブルは2014年4月4日から、事務局連絡用掲示板（通称：掲示板5）に対し、ロボットによる迷惑広告の自動投稿が始まったことです。この日だけで503件が投稿されました。翌日から4月末まで日におよそ500件もの迷惑広告の投稿が毎日続きました。ブランドバックや時計、アクセサリなど服飾関係がメインでした。貼ってあったURLにアクセスしていませんが、日本語表現が変で内容が信用できないものばかりでした。会員の皆様がうっかりURLにアクセスしないようにと、せっせと削除しましたが追いつきません。事務局から「掲示板に変な広告が投稿されているので削除してください。」と連絡があったくらいです。日に500件も自動で投稿されてはたまりません。結局4月は、この13000件余りも投稿された迷惑スパム広告の対応に追われてしまいました。全く持って迷惑千万な話です。掲示板プログラムの修正やディレクトリ名称変更で対抗しましたが、7月初めにまたロボット検索に見つかってしまい、スパム投稿の再発があり、あきらめて泣く泣く掲示板5を閉鎖しました。掲示板5のプログラムの基本構造が、この手のスパムに脆弱

であり改修不可能と判断したのです。他の掲示板1～4につきましても、今のところロボットによる自動スパム投稿は発生していません。会員の皆様にはたいへん迷惑をおかけしますが、事務局やホームページ委員会への連絡につきましても、電子メールもしくは他の掲示板の利用をお願いします。我々の技術力不足でこのような事態になり、たいへん申し訳ありませんでした。

しかしながら悪いことばかりではありません。このスパム投稿の数値を排除してカウントしても、閲覧頁数（ページビュー）は大幅に増加し、前年に過去最大値を記録したのに続き更に前年比+16%の増加と過去最大を更新しました。掲示板の投稿・閲覧は大幅に減少していますが、会報の新年号（昨年No.36号）をはじめ会報バックナンバーの閲覧が急増しています。会員の皆様のご利用はもちろんです。当会ホームページが一般にも知れ渡った証拠かもしれません。会員の皆様にご支援いただきましたこと、深く感謝致します。

さてこの12年目については、追加記事の掲載やイベント紹介頁の作成など改訂・追加コンテンツ作成は全くと言っていいほど進展しませんでした。申し訳ありません。私事ですが勤務の都合で、首都圏を離れ東海地区に単身赴任になったおかげで、郡山に全く行くことができずまた東京桑野会の会合

株式会社 富士ハイエンジニアーズ  
一級建築士事務所

代表取締役  
(管理建築士) **遠藤 修（67期）**  
(一級建築士)  
(一級建築施工管理技士)  
(一級土木施工管理技士)

〒215-0015川崎市麻生区虹ヶ丘一丁目18番6号  
☎: 044-988-7387 携帯:090-3212-2892  
FAX: 044-988-7547  
E-mail: o-endou@river.ocn.ne.jp

ごうや  
山田・合谷・鈴木法律事務所  
弁護士 **鈴木 修一（89期）**

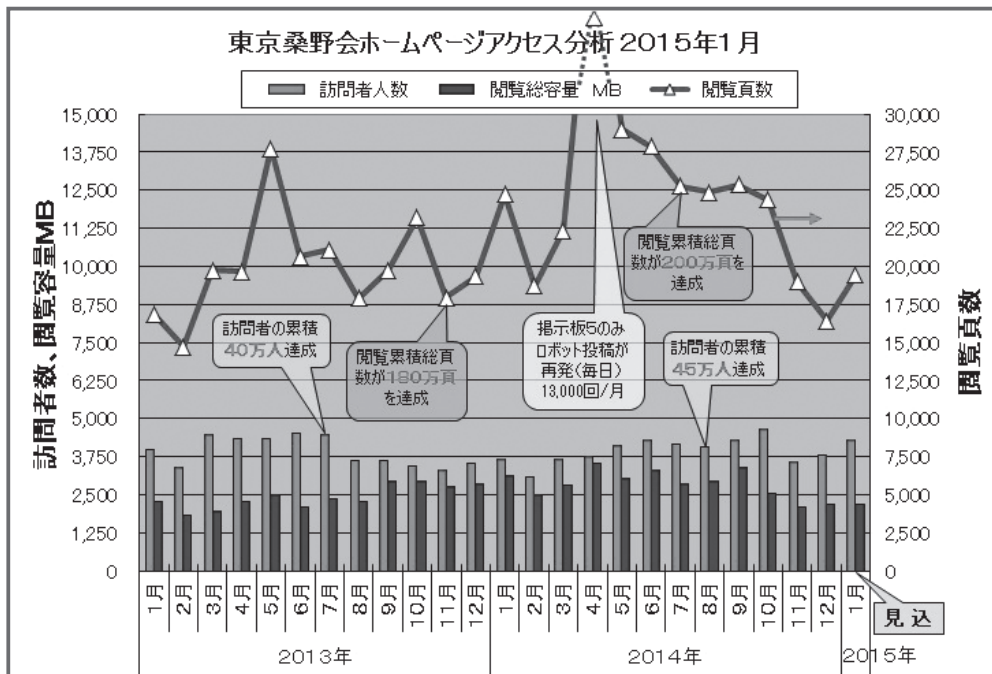
〒100-0012  
東京都千代田区日比谷公園1番3号  
市政会館1階115号室  
TEL 03-3501-0451  
FAX 03-3501-0452  
E-mail: shuitisuzuki@nifty.com  
<http://www.yamada-law.gr.jp>

21世紀をリードする  
安積SPIRIT!

**浅川 章（76期）**

東京桑野会副会長  
〒338-0821さいたま市桜区山久保2-18-3  
電子メール: chobi@hyper.ocn.ne.jp





東京桑野会ホームページへのアクセス状況

にすらほとんど参加できなくなってしまいました。母校は創立130周年となって記念式典が各地で開催されましたが、取材もできず情報が収集できないため記事の作成が滞ってしまったのです。言い訳になってしまい申し訳ありませんが、今年度は努力して活動をさせていただきます。

3.11の大震災も4年が経過し、世間一般ではフクシマの記憶も薄らいできました。まだ苦しんでいる多くの人々が存在することを再認識し、ここでもう一度「原発の安全性」への疑問をまとめて特集したいと考えていま

す。ぜひ皆様のメッセージを寄稿していただけましたら幸いです。また昨年は、恒例の親睦ゴルフ同好会運営や練習帆船日本丸カレンダーの調達と、積極的に当会の活動を支援していただきました71期の大内博文氏が享年74歳で永眠(2014年7月9日)されました。当会ホームページの運営にも多大なるご支援をいただいております、たいへん残念でなりません。ご冥福をお祈りします。

ここで恒例ですが、当会ホームページへのアクセス状況について報告します。この原稿を書いている1月までの

経過を過去2年間分のグラフで示しました(別掲の図を参照:今年1月は見込みの数値)。昨年8月29日には累積訪問者数が45万人を達成し、その前月の7月13日にはのべ閲覧頁数200万頁を突破しました。この1年間での平均として、月間訪問者数3920人、月間閲覧頁数23870頁で推移しており、訪問者数は前年比同数ではありましたが、前述した通り閲覧頁数ではプラス3300頁(+16%)と大幅に増加し過去最大を更新しました。この数値は2014年4月の掲示板5へのロボットによる自動投稿13000頁を除いたもの

**弁護士 齊藤 英彦 (69期)**

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目3番8号  
YKB新宿御苑804号室  
電話 (03) 3356-6677番  
FAX (03) 3356-6678番

**安高は自分の心の拠りどころ**

医療法人社団 松弘会  
トワーム小江戸病院

院長 渡辺 哲弥 (70期)  
医学博士

(練馬区東大泉7-14-15)

**木質床(フローリング工事)  
孝和建商株式会社**  
千葉県中央区汐見丘町16番12号

取締役総務部長 **小林伸久(84期)**  
E-mail: nobuhisakoba@docomo.ne.jp

☆Rie's Gospel Choir & Rummy's Gospel Singers Christmas Gospel Concert H27.7.13(日)14時 三郷文化会館大ホール	☆中里たかし パーカッションスクール ライブ VOL. 8 H27.11月(予定) 日暮里・サルサクラブ・サル(予定)
---	---

です。閲覧頁数が2年連続で月間平均2万頁を大きく超えてきているということは、ひとえに会員の皆様のおかげと重ねて感謝します。今後ともご利用を賜りますよう、よろしく申し上げます。

最後に毎年の決まり文句ですが、今後とも会員の皆様のご期待に沿えるよう、充実したページ作りに励みたいと考えています。重ねて当委員会への参加または情報提供を広く会員諸兄にお願い致します。連絡先はホームページをご覧ください。

(出光興産(株)電子材料部)

## 《大内博文氏追悼》 熱海中学の俊才 大内博文君 安らかに眠れ

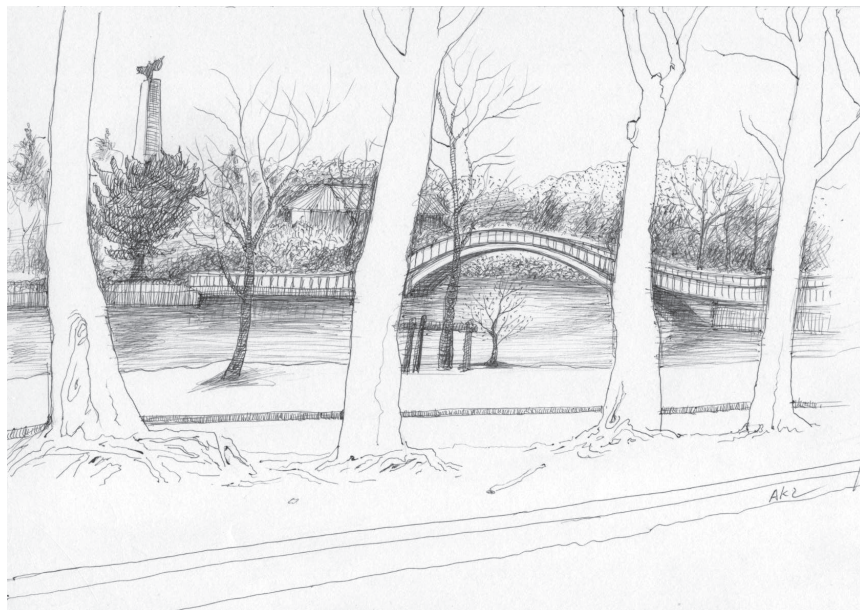
増子邦雄 (71期)

2014年7月9日、安積同期の大内博文君が突然逝った。悲しい。本当に悲しい。2011年3月、私が癌を患い、手術、入院していた頃、彼は元気に東京桑野会のゴルフ会幹事として、「増子君、また元気になって一緒にゴルフをしよう」と励ましてくれた。酒をこ

よなく愛し、類まれな面倒見の良さで付き合いで誰からも好かれていた大内君、その彼が「体調が良くないらしい」という話を耳にしたのは2013年の暮れであった。年が明けた春に電話をしたところ、あの元気に似合わない声で、「実は胆管細胞癌なんだ」と打ち明けられてびっくり。お互い同じ歳、同じ癌という病気になったけど、「病気じゃ、俺の方がちょっと先輩になったなあ」などと冗談を言って、お返しに励ましたのが彼との会話の最後となった。

想えば1955年春、大志を抱いて安積の門をくぐった同期生、しかし私は安積在学中の彼を知らない。彼は熱海中学校の出身、現在熱海町は郡山市内だが、当時は安積郡熱海町であった。市内の中学出身の私には、高校の3年間、別のクラスだった彼とは接点が無かった。ましてや1学年300名以上、しかも7クラスもあったのだから当然のことだったかもしれない。

その彼を知ったのは、お互い大学を卒業して社会人になってからであった。私は早稲田大学、大内君は東京商船大学と全く接点のない方向へ進んでいた。このままだったら永遠に出会うことはなかったであろう。ところが人生とは不思議なものだ。神様がまた、二人を近づけたのだ。大学を卒業して入社した会社が、なんとお互い海運会社であった。彼は商船大学を卒業したのだから、当然かもしれない。私の方



《開成山公園・五十鈴湖》画：秋山忠也 (71期)

株式会社 櫻井淳計画工房  
代表取締役 一級建築士  
櫻井 淳 (78期)

〒231-0007  
横浜市中区弁天通6-85宇徳ビル403  
TEL: 045-663-9271  
FAX: 045-663-9273  
E-mail: spajun@bk.ij4u.or.jp  
Web Site: <http://www.j-sakurai.jp/>

労働保険事務組合  
神奈川県 S R 経営労務センター

会長 佐藤 重夫 (79期)

特定社会保険労務士

事務局 〒231-0005 横浜市中区本町4-36  
朝日生命横浜本町ビル8F  
TEL: 045-212-5269  
FAX: 045-212-3177  
<http://www.kanagawa-src.jp>

本場の医療崩壊はこれからやってくる！  
2015年2月27日 洋泉社、本田 宏著

本田 宏 (86期)

元埼玉県済生会栗橋病院 院長補佐  
NPO法人医療制度研究会 副理事長

昨年還暦を迎えたのを契機に、2015年3月で外科医を引退して、医療と日本再生のために執筆・講演・市民運動参加等に専心することになりました。  
現在の日本は戦前に朝河寛一先輩が嘆いていたと同様の危険な状況を呈しています。今年の2月には新刊を出版しました。皆さまの応援を心よりお願いいたします。  
連絡用メールアドレス hondahiroshi@me.com  
携帯番号 090-3205-9482



は、大学卒業の時にちょっと方向転換をして、それまでのマスコミ志望から海外での仕事を夢みて海運会社へ入社してしまいました。それでも彼は船乗りであり、いわゆる海上勤務、私は陸上勤務の社員、彼と直接出会うまで、それからさらに二十年の歳月が流れる。

私が、当時の山下新日本汽船（会社はその後合併を重ねて商船三井となっている）の人事課長となった1983年頃、大学同期で仕事でも交流のあった日本郵船の人事課長から、「うちの会社に安積の同期生がいる」との話を聞いてびっくり、それが大内君だったのだ。彼はあの面倒見の良さと能力を買われ、海上勤務から陸上勤務へ転籍して人事部で、当時全ての外航海運会社の懸案であった船員の合理化問題に取り組み大いに力量を発揮していた。

その後、彼は郵船の監査役を務めたあと、横浜にある郵船の関連造船会社の社長、日本船舶機関士協会会長などの要職を歴任した。さらに母校の東京商船大学（現、東京海洋大学）同窓会の役員を引き受け、後輩の海運会社への就職にも力を入れ、将来若い人達が海へ戻ってくることを念願して、その啓発活動に熱心に取り組んでいた。その活動が道半ばで途絶えることが、彼にとっては唯一悔いが残ることではないだろうか。

その彼を東京桑野会に誘ったのは、私である。桑野会に入会後は、持ち前の積極性と明るさで会計監査やゴルフ

会の幹事を心良く引き受けてくれた。東京桑野会のため、大いに活動してくれたのはご存知のとおりである。先日、偶々大内君の熱海中学校時代の同期の女性と会う機会があり、その時彼女達は「熱海中時代の大内さんはすごく優秀で私達のリーダーだった」と、その急逝を悔やんでいたことを最後に付け加えておきたい。

大内博文君 安らかに眠れ！ 合掌  
（東京桑野会副会長）

## 幹事長交代の記

### 東京桑野会広報部

平成26年度の総会および東京桑野会会報No.36でも既にご存じであろうと思います、東京桑野会の幹事長が交代いたしました。幹事長交代の記として、新・旧の幹事長をここで改めて紹介いたします。

新幹事長は、上石利男氏（80期）



《導因寺山門（安積高校正門の真向い）》画：秋山忠也（71期）

奮い立て我健男児

大矢 真弘（88期）

石井総合事務所

司法書士・行政書士

石井 俊一（82期）

〒104-0061 東京都中央区銀座8-8-15  
青柳ビル7階

TEL : 03-3289-1411  
FAX : 03-3289-1422  
E-mail : s-ishii@e-1411.com  
http://www.e-1411.com

展示会

平成27年12月9日(水)～21日(月)土日会展:国立新美術館  
作品 チャグ馬シリーズ 194×388cm

展示会予定

平成28年11月頃 岩手県滝沢市新文化ホール(仮称):個展  
作品 チャグ馬シリーズ 194×388cm =10組 他

高松 ゆたか（74期）

ギャラリー・  
絵画教室 たかまつ

(<http://www.gallery-takamatsu.com>)

です。上石氏は、司法試験合格・司法修習生を終えたのち、弁護士登録され、弁護士として活躍されています。手掛ける分野は一般民事とのことです。神田駅前に事務所を構えられ、その“飲みに行くには最高の場所”に東京桑野会の事務局を置いて頂いております。東京桑野会の幹事長は、中々の業務があつて大変な任であります。が、“この幹事長の仕事は、日常の弁護士の仕事とかなり違って、楽しい”と言つてくださっております。今後の益々のご活躍とご指導をお願いいたします。また、新神田法律事務所の事務

員である矢野希美さんに、東京桑野会の事務を委嘱しております。明るく熱意のある方ですので、どうぞ宜しくお願いいたします。

幹事長を退任されました斉藤英彦氏(69期)には、東京桑野会の幹事長(事務局)を1990年より4半世紀近く務めて頂きました。斉藤氏は、公職としても、大変な活躍をされました。(合格者が500名に満たない時代の)司法試験合格。司法修習生を終了の後、検察官として東京、盛岡、横浜等の地で勤務されました。退官の後、弁護士事務所を開設し弁護士業に従事する傍ら、

大学教官、大学理事等の要職も兼務されました。極めて多忙な中で、東京桑野会の幹事長を務めて頂いたこと、東京桑野会の澤田悌・前会長から古川清・現会長に続く東京桑野会黄金期を支えたご功労に、ただただ感謝申し上げます。また斉藤法律事務所の事務員の小松弥生さんにも大変にお世話になりました。改めて感謝申し上げます。斉藤氏は、東京桑野会では、会長代行として今後ともご尽力いただきますが、どうぞ今後とも宜しくお願いいたします。



《安積歴史博物館(旧本館)》画：秋山忠也(71期)

株式会社開成プランニング 代表取締役  
(<http://www.kaisei-planning.co.jp>)

和田 正哉 (77期)

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-2  
勤務先電話：03-3230-8001  
FAX：03-3230-8550  
携帯：090-3236-3883  
e-mail: wada@kaisei-planning.co.jp  
携帯mail: wada-masanori@docomo.ne.jp  
自宅電話: 047-332-2287

古川 清 (63期)

がんばれ安積 がんばれ日本

渡邊 龍一郎 (81期)

Watanabe Ryuichiro

〒107-0062 東京都港区南青山5-12-28-802  
Phone: 090-1429-6127  
E-mail: watanabe2021@ryu.bz



## 平成 25 年度決算報告書

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

		決 算 額	予 算 額
1 収入の部	(1) 前年度繰越金	551,333	551,333
	(2) 年会費収入	1,088,000	1,300,000
	(3) 総会費収入	903,000	1,100,000
	(4) 協賛広告料	250,000	270,000
	(5) 受取利息	35	400
	(6) 雑 収 入	30,000	50,000
	収入合計	2,822,368	3,271,733
2 支出の部	(1) 総会懇親会費	968,150	1,150,000
	(2) 通 信 費	33,940	50,000
	(3) 会 議 費	4,000	20,000
	(4) 会報作成費	364,140	364,140
	(5) 会報発送費	316,234	316,234
	(6) 事務消耗品費	76,909	150,000
	(7) 母校後援費	0	100,000
	(8) 冠婚葬祭費	1,827	50,000
	(9) 支払手数料	44,185	50,000
	(10) 人 件 費	400,000	400,000
	(11) 交 通 費	700	50,000
	(12) 名簿編集費	40,000	20,000
	(13) ホームページ・広報部会運営費	24,360	50,000
	(14) 雑 費	0	100,000
	(15) 予 備 費	0	401,359
支出合計	2,274,445	3,271,733	
	次期繰越金	547,923	0
3 特別会計	事業準備積立金	1,367,084	
4 財産目録	(1) 普通預金 (三井住友銀行)		196,863
	(2) 定期預金 (三井住友銀行)		1,367,084
	(3) 郵便振替貯金		350,222
	(4) 現 金		838

## 平成 26 年度予算案

(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

1 収入の部	(1) 前年度繰越金	547,923
	(2) 年会費収入	1,100,000
	(3) 総会費収入	1,200,000
	(4) 協賛広告料	270,000
	(5) 受取利息	40
	(6) 雑 収 入	30,000
	(7) 事業準備積立金繰入	300,000
	収入合計	3,447,963
2 支出の部	(1) 総会懇親会費	1,400,000
	(2) 通 信 費	50,000
	(3) 会 議 費	20,000
	(4) 会報作成費	378,000
	(5) 会報発送費	317,453
	(6) 事務消耗品費	150,000
	(7) 母校後援費	100,000
	(8) 冠婚葬祭費	50,000
	(9) 支払手数料	50,000
	(10) 人 件 費	400,000
	(11) 交 通 費	50,000
	(12) 名簿編集費	20,000
	(13) ホームページ・広報部会運営費	50,000
	(14) 雑 費	10,000
	(15) 予 備 費	402,510
	支出合計	3,447,963
	次期繰越金	0

上記は監査の結果いずれも適正なものと認める。

平成 26 年 4 月 4 日

会計監査 大 内 博 文  
 会計監査 関 根 健 治

### 会費納入のお願い

東京桑野会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられています。会報の作成・送付も会費によって賄われています。現在、会報を送付している会員からの会費納入の達成率が低迷し、東京桑野会の財務が逼迫しつつあります。東京桑野会の健全な財務状態を維持するためにも会費納入をお願いいたします。(東京桑野会は安積桑野会とは別会計となっておりますことご承知ください)

## 編集後記

○今回の表紙絵・挿絵は、71期の秋山忠也さんの作品です。私は74期なので在学中はお会いすることは有りませんでした。この度、3.11で大修理を余儀なくされた本館の改修が完了し、今では“安積歴史博物館”と呼ばれる名称の新装記念展として館内ギャラリーで、「絵画のOB展」が開かれました。

名を連ねる美術OB会員は35名。往年の安積健児は54期から100期、反省会のご発言は“熱き心”そのモノでした。その席上、秋山先輩が私の近くに居られ、それとなく「東京桑野会報の挿絵」をお願いしましたところ「快諾」を頂いた経緯でした。秋山先輩！寒さも一入りの折、“身近な風景を描くのは、ほんとにしばらくぶりです、改めてスケッチの楽しさが味わえました”とのコメントを頂きましたが、心よりお礼を申し上げます。素晴らしい作品を、本当に、ありがとうございました。

(74期 高松ゆたか)

○携帯電波も届かない千葉県山奥に6年間勤務後、はれて都内の丸の内本社に勤務となったと思ったら、1年で突然地方の工場に単身赴任することになったことは昨年書いた。JRの最寄り駅は新幹線の停車駅でもあるが、住んでいるアパートから公共の乗合バスで30分、約15kmの距離。会社(工場)までは車通勤で約6km、12分くらい駅とは反対の方向に走る。工場の周りは国道が近くを通っているものの、飲食店やコンビニ等の店舗は全くなく、他社の工場と畑が広がる工業団地。家族や本社の同僚・友人達は、「生活が大変ですね」と気遣ってくれるが、2年が経過したものの結構快適な暮らしをしている。まずは雪が降らない、道路はすいているので渋滞は全くなし。アパートの周辺には、大型スーパーも量販家電店もホームセンターもチェーンの飲食店もある、まとまったショッピングモールで徒歩3分。しかもアパートの1階はセブンイレブンなので生活に困ることはない。しかしながら台風の通り道で、昨年は何度も暴風雨圏内に入りアパートに缶詰になったことがあった。工場ではパートのオバチャン達と楽しく会話し、歳が私の1/3以下の現地採用の若い工員とも意気投合している。とまあ、思いつくまま書いたがもう現役定年の年齢に達

してしまつたので、そろそろ首都圏に戻る準備をしている日々である。

(がっちゃん)

○今思えば、昨年6月19日の大内先輩からの事務局へのメールで総会欠席の旨あり、夏はまたゴルフでお会いできるかと思っていた矢先、7月9日に先輩の訃報に接しました。ただ驚くばかりで、「おーい櫻井君いるか」今日でも、私のオフィスを訪ねてくる様な気がします。

以前、大内先輩に頼まれ、「海洋」と言う雑誌に「海洋会館」(大内先輩が理事をしていた象の鼻に建つ建築)の建物の歴史的価値を書いた。その後この記事について、私にいるビルの人から、櫻井さんの原稿読んだよと言われた。このビルは船舶関係の宇徳ビルと言い、船舶関係の人が多い。それで、大内先輩もこの近くで時々よく飲まれていました。大内先輩とは不思議な縁で、最近をよく「横浜桑野会」を馬車道周辺でやりました。親しみやすい人柄と器の大きさは海で鍛えられたのだろうと思います。日本丸をこよなく愛し、あの帆船を語る時、展帆のことなど話をよくしてくれました。日本丸は私のデスクからよく見えて、あのマストを見ながら大内さんの笑顔を思い浮かべ、「少し早すぎますよ」と先輩に文句をいいながら、冥福を祈ります。

(78期 櫻井淳)

○安積は永き歴史を持ちます。安積が、130年の時間で変遷したありさまを、東京桑野会会員の2015年の“眼”から見て記録してみたい、とその特集表題は、「安積を辿る from 2015 to 1884」といたしました。130年を超えて行く安積を、特集として描いて頂きました。原稿を最初に読む役得が広報部にはあるのですが、いろいろと感じます。在籍した時代によって、そしてそれが2~3年しか違わなくても、随分と異なると感じる。一方で、変わらないものも感じる。それらが混じり合っただけで歴史と伝統になってゆくんだな、と感じ入ります。

歴史と伝統と言えば、130周年記念でもいろいろなTV特番が放映されたようです。120周年記念でもいろいろな番組がありました。TV特番の中には、安積の伝統をとて“持ちあげる”ものもありますね。私が驚いたのが、120周年時のTV特番。なぜ安積(福島尋常中学校)が桑野村(郡山)に作られたか?それは会津を牽制するための役割もあったんだ、大久保利通がど

うのこうのと、あるOBの方が話をしているのを見てたあげた…。福島の旧制中学校(福島、平、若松)が出来たのが明治17年、その後1県1中学となり福島尋常中学(のちの安積)が残り、明治22年に桑野村に新築された校舎に移転した。会津中学は私立学校として明治21年に開校。この辺の時系列は混沌としているが、会津中学への対応の意味もあり県中学を桑野村に、っていうのは、ちと無理があるんじゃないの?(県庁を福島に置く代わりに、郡山に県中学っていうのは、分かるけど)。それに、大久保利通は紀尾井坂の変で明治11年に暗殺されている。福島の中学校の創設と大久保利通、時代があいませ〜ん。歴史を正しく勉強しましょう、と思いました。なお、郡山には大久保利通を祀る大久保神社が安積公民館牛庭分館の中にあります。以上、私の「安積を辿る from 2015 to 1884」でした。(GF91)

### 【協賛広告のお願い】

東京桑野会会報は、三千数百部を発行し、母校・安積高校や福島県立図書館などにも納入されております。“安積卒業生の心意気”を協賛広告で示してみませんか。お問い合わせは事務局まで。

### 【事務局からのお願い】

会報の発送は、会員各位の住所動向に大きく左右されます。住所が変わっていると、折角の会報も戻ってきませんので、住所変更の際は東京桑野会の事務局まで、ご連絡下さいませよう。お願い申し上げます(東京桑野会ホームページにも、連絡先を表示しております)。安積桑野会の方にご連絡された方も、ご面倒でも東京桑野会の方にもご連絡下さい。

---

### 『東京桑野会会報』No.37

2015年4月1日発行

発行・編集人●古川 清

発行所●東京桑野会

〒101-0045

東京都千代田区神田鍛冶町3-2

サンミビル7階

新神田法律事務所内

Tel 03-3252-9671 Fax 03-3252-9673

E-mail asaka@tokyo-kuwano.com

URL <http://www.tokyo-kuwano.com/>

製作●株式会社キタジマ

〒130-0023 東京都墨田区立川2-11-7

Tel 03-3635-4510 Fax 03-3635-4515

---